

わ げん あい ご 和 顔 愛 語

病は口から入り、禍は口から出るといふ諺とともに、和顔愛語というコトバも、日本では古くから親しまれていますが、その出処は、無量寿經の上巻にあります。

法蔵菩薩が、一切衆生を成仏させるために、「たとえ身を、もろもろの苦毒の中に止むとも、わが行は精進して忍びて遂に悔いじ。」と、一大決意を持って48の誓願を建立します。そして、一方には説法獅子吼す、という勇猛な句とともに、諦聴、諦聴（汝明らかに聴け）という厳しい語が使っていますが、他方では、和顔愛語（顔色を和らげ、角立たぬ言葉を使う）とともに柔軟と言う語が、しばしば出ております。柔軟心とは、高ぶることなく、沈むこともなく、諸法実相を了知して、人生のまことのすがたに随順して逆らうことのない心であります。

国信玉三 著 『和顔愛護』より抜粋